



Title	キルギス語とアルタイ語の補助動詞iy-/ jiber- の出現についての調査と考察
Author(s)	AKMATALIEVA, Jakshylyk
Citation	北方言語研究, 11, 233-248
Issue Date	2021-03-20
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/80936">http://hdl.handle.net/2115/80936</a>
Type	bulletin (article)
File Information	NoLS11_04_233_JakshylykAKMATALIEVA.pdf



[Instructions for use](#)

[資料・研究ノート]

キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *iy-/jiber-* の出現についての調査と考察

アクマタリエワ ジャクシルク  
(東京外国語大学)

キーワード：キルギス語、アルタイ語、認識動詞、移動動詞、補助動詞

## 1. はじめに

本稿では、チュルク諸語の北西グループに属するキルギス語と北東グループに属するアルタイ語の補助動詞 *iy-/jiber-* 「送る」の用法について考察する(類義の両動詞をスラッシュによりまとめて示す。「」内には本動詞としての語彙的な意味を表す)。本稿でとりあげる2つの言語は、チュルク諸語の下位分類においては全く異なるグループとして位置づけられる<sup>1</sup>。

キルギス語は、中央アジアのキルギス共和国の公用語で、キルギス共和国以外にもその周辺のウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、更に中国の新疆ウイグル自治区やアフガニスタンなどでも話され、約480万人の話者をもつ。一方のアルタイ語は、ロシア連邦アルタイ共和国に住むアルタイ人の間で話されている言語であり、話者はおよそ7万人である。ユネスコによる絶滅危険度の評価で「重大な危険」レベルにあり、絶滅が危機的状況にある言語でもある(UNESCO 2009)。アルタイ語は北部方言と南部方言に大別され、両者間にはかなりの差異があるとされている(Baskakov (1958, 1966)、庄垣内 (1989)、Johanson (1998) 等)。本稿の考察対象はアルタイ共和国の標準語とされる南部方言のアルタイ・キジ方言に限ることとする。

地理的に離れているキルギス語とアルタイ語に互いに類似した現象が見られることは度々指摘されている。例えば、Baskakov (1958: 27-34, 1966: 506) や Johanson (1998: 81-137) などの先行研究では、キルギス語がチュルク諸語の中でもアルタイ語と非常に深い関連性があると指摘されている。しかし、これらの指摘は具体的かつ十分な研究や調査に基づいて行われたものとは言い難い。

この点を踏まえて本稿では、キルギス語とアルタイ語の関係を探る第一歩として、補助動詞 *iy-/jiber-* 「送る」の用法の共通点と相違点に着目して対照を行う。

## 2. 先行研究

本節の2.1節でキルギス語の補助動詞 *iy-/jiber-* 「送る」についての先行研究を概観し、2.2節でアルタイ語の補助動詞 *iy-* の先行研究の記述を要約し、2.3節で問題提起を行う。

<sup>1</sup> Johanson (1998: 82) によると、地理的分布と系統的・類型論的特徴に基づくチュルク諸語の下位分類では、キルギス語は北西(キプチャク)語群に分類され、アルタイ語は北東(シベリア)語群に分類される。

## 2.1. キルギス語の先行研究

キルギス語では、動詞 *iy-/jiber-* 「送る」の意味用法に関する詳細な研究は行われていないが、辞書や文法書などによる記述はわずかではあるが存在する。以下、2.1.1 でキルギス語・ロシア語辞書である Yudahin (1965) と 2.1.2 では Seydakmatov (1988) を先行研究として紹介する。

### 2.1.1. Yudahin (1965)

Yudahin (1965: 296) は動詞 *iy-* について *ir-* や *jiber-* と同様な意味をもつ語であるとして、次のような例をあげている。

- (1) *mušta-p iy-di*<sup>2</sup>  
殴る-CVB AUX<sup>3</sup>-PST  
「殴打した」

動詞 *ir-* は補助動詞として使用され、「素早さ」を表す (Yudahin 1965: 302)。

- (2) *čaa-p ir-di*  
叩く-CVB AUX-PST  
「叩いた」

- (3) *kiyim-i-n uurda-t-ip ir-gen*  
服-3:POSS-ACC 盗む-CAUS-CVB AUX-PST  
「(彼は) 服を盗まれてしまった」

動詞 *jiber-* は 1. 「送る」、2. 「許可する」、3. 「補助動詞として使用され、*ir-* や *iy-* と同様な意味を表す」と記述し、次の例をあげている (Yudahin 1965: 253)。

- (4) *ïyla-p jiber-di*  
泣く-CVB AUX-PST  
「泣いてしまった」

### 2.1.2. Seydakmatov (1988)

Seydakmatov (1988: 95) は動詞 *iy-* 「送る」について次のように記述している。

キルギス語の動詞 *iy-* 「送る」は、古代チュルク諸語では動詞 *id-* に当たる。動詞 *id-*

<sup>2</sup> 本稿で引用する先行研究の引用文や調査資料などからの用例において、太字による強調、下線、グロス、および翻訳などは、すべて筆者によるものである。

<sup>3</sup> 本稿における補助動詞のグロスは全て AUX と表示する。ただし、本稿の主たる考察対象である *iy-*、*ir-*、*jiber-* 以外の補助動詞のグロスでは、その補助動詞の語彙的な意味を書くことにする。

の意味は、*jiber-* の意味「送る」を表す。動詞 *iy-* に接尾辞の *-Ip* がつき、*iyip* となり、補助動詞として使用される。*iy-* は *ir-* という形でも使用される。*iy-* と *ir-* は、1つの単語の異形態ではあるが、*jiber-* はこの2つの形から生まれた派生語であり、意味の類似もそれが原因である。

例) *irdap iy, irdap ir, irdap jiber* (いずれも)「歌いなさい」

(Seydakmatov 1988: 95)

## 2.2. アルタイ語の先行研究

補助動詞 *iy-/jiber-* についてのキルギス語の先行研究は少ないのに対して、アルタイ語においてこれらに対応する動詞についての先行研究はいくつか存在する。以下、それぞれについて具体的にとりあげる。

### 2.2.1. Tazranova (2017)

Tazranova (2017: 244) は、アルタイ語の補助動詞 *iy-* は、1. 「送る」という語彙的な意味と、2. 文法的な意味をもっていると記述して、次の例文をあげている。

(5) *Ene-zi bala-zī-n lager'-ge iy-gen.*

母-3:POSS 子-3:POSS-ACC キャンプ-DAT 送る-PST

「母親は子供をキャンプに送った。」

(6) *Bu iš-ti enir-ge jetire ed-ip iy-dī-m.*

この 仕事-ACC 夕方-DAT まで する-CVB AUX-PST-1SG

「この仕事を夕方までやりおえた。」

Tazranova (2017: 272) によると、アルタイ語では *V-(I)p iy-* のみが補助動詞として扱われている。キルギス語の *jiber-* に対応する *V-(I)p iyer-* の形式は補助動詞として扱われていない<sup>4</sup>。

### 2.2.2. Tokhnina (2006)

Tokhnina (2006: 72) は、アルタイ語の補助動詞 *ber-* 「与える」、*iy-* 「送る」、*kal-* 「残る」、*al-* 「取る」、*koy-* 「置く」、*sal-* 「しまう」のアスペク的な意味用法について考察している。本稿の考察対象である補助動詞 *iy-* 「送る」については、動作の結果ではなく、動作の過程に重点を置き、動作の速さと瞬時に一回のみ行われる動作を表すとしている。そして、補助動詞 *iy-* の文法的な意味用法を主動詞の意味特徴により、大きく3種類に分類し、細かく提示している。以下、Tokhnina (2006: 70-86) の分類を筆者がまとめたものを表1に示す。

<sup>4</sup> 本稿でも、*V-(I)p iyer-* 形式を補助動詞として扱わない。

[表 1] Tokhnina(2006)による補助動詞 *iy-* に先行する主動詞についての考察結果のまとめ

I	静的動詞 <sup>5</sup>	1. 状態変化の動詞 <sup>6</sup> (心理及び感情状態を表す動詞)	<i>ÿyla-</i> 「泣く」 <sup>7</sup>
		2. 身体動作を表す動詞	<i>ÿškür-</i> 「息を吸う」
		3. 聴覚動詞	<i>kÿygür-</i> 「叫ぶ」
		4. 言語活動動詞	<i>sura-</i> 「尋ねる」
		5. 行動活動動詞	<i>ed-</i> 「する」
		6. 感覚動詞	<i>kör-</i> 「見る」
II	感覚動詞	1. 身体的動作動詞	<i>tud-</i> 「立てる」
		2. 感情及び心理的な感覚動詞	<i>čoçid-</i> 「驚かす」
III	存在・空間動詞	1. 静的な動詞 (存在動詞、居場所を表す動詞)	<i>jad-</i> 「住む」 <i>otur-</i> 「座る」
		2. 動的な動詞 (移動動詞、配置動詞)	<i>alta-</i> 「歩く」 <i>tašta-</i> 「捨てる」

Tokhnina (2006) の主動詞の分類は、補助動詞 *iy-* だけではなく、*ber-* 「与える」、*kal-* 「残る」、*al-* 「取る」、*koy-* 「置く」、*sal-* 「しまう」の場合にも同じ分類が使用されているものである。この考察結果より、アルタイ語の補助動詞 *iy-* は様々な動詞と共に出現することが分かる。

### 2.3. 問題提起

これらの先行研究からは、キルギス語に比べアルタイ語の補助動詞 *iy-* の意味用法が豊富であり、そしてアルタイ語における補助動詞 *iy-* の出現頻度が高いことが推察される。本稿では、どのような類似点・相違点がでてくるのかという問題を提起し、調査を行う。

### 3. 調査・考察

本節では、両言語における補助動詞 *iy-/jiber-* の対照を行う。その際に用いた調査方法を説明し、それぞれの調査結果を述べる。

#### 3.1. 調査方法

調査は、主に以下の2つの方法によって行う。

①様々な言語で聖書を翻訳したウェブサイト(“Bible.is”)からキルギス語・アルタイ語(南方言)の文を抽出し調査を行う。

アルタイ語：[https://live.bible.is/bible/ALTIBT/MAT/1?audio\\_type=audio\\_drama](https://live.bible.is/bible/ALTIBT/MAT/1?audio_type=audio_drama)

<sup>5</sup> ロシア語の文法用語の日本語訳は、菅野(1992)を参考にしている。

<sup>6</sup> Tokhnina(2006)によると、人の身体にかかわる状態変化を表す動詞(例えば、*semir-*「太る」とは組み合わせられない。

<sup>7</sup> Tokhnina(2006)は各用法について例文をあげている。本稿ではその例文をあげないが、代わりにその例文の主動詞の例をあげておく。

キルギス語 : [https://live.bible.is/bible/KIRWBT/MRK/1?audio\\_type=audio\\_drama](https://live.bible.is/bible/KIRWBT/MRK/1?audio_type=audio_drama)

②キルギス語・アルタイ語のテキストや、インターネットより収集した用例を調査する。

### 3.2. 調査結果

本節では、まず、3.2.1.で聖書を翻訳したテキストにおける補助動詞 *iy-/jiber-* の出現頻度と主動詞のタイプについて述べる。次に、3.2.2.で小説やインターネットより抽出した用例を考察する。

#### 3.2.1. 聖書を翻訳したテキストにおける補助動詞 *iy-/ jiber-* の出現傾向

聖書をキルギス語とアルタイ語に翻訳したテキストに現れる補助動詞 *iy-/jiber-* の使い方、現れ方の特徴に注目する。聖書翻訳テキストを資料に選んだ理由は、2つある。1つは、共通の原文をそれぞれの言語に翻訳したものであるため、対照が容易であるからである。もう1つの理由は、原文の意味を誤解なく伝えられるよう、正確に、かつ分かりやすく翻訳されていることが期待できるからである。

聖書が翻訳されたテキストは全28話からなる。まず全てのデータから文を抽出した結果、文の数は1070例であった。その中に、本研究の対象である補助動詞 *iy-/ jiber-* がどのように現れているかに注目した。その結果、以下の表2に示すような結果が得られた。

[表2] 聖書翻訳文1070例における補助動詞の出現頻度

キルギス語訳から	<i>V-(I)p jiber-</i>	18例
	<i>V-(I)p iy-</i>	0例
アルタイ語訳から	<i>V-(I)p iy-</i>	56例

このデータから、補助動詞 *iy-/jiber-* は、キルギス語訳よりも、アルタイ語訳の方で出現する傾向が高いと言える。また本調査では、キルギス語では *V-(I)p jiber-* 形式のみが出現し、*V-(I)p iy-* 形式は1例も出なかった。その原因は、キルギス語では *V-(I)p iy-* 形式は話し言葉で使用されることが多く、書き言葉である翻訳資料ではもっぱら *V-(I)p jiber-* 形式が使われたためだと考えられる。

今回のデータでは、①両言語ともに補助動詞が現れる場合、②一方の言語には補助動詞が使用されない場合、そして、③一方の言語には他の補助動詞が使用されている場合が観察された。以下、それぞれのケースを考察する。

#### ① 両言語ともに補助動詞が現れる場合

まず、キルギス語でもアルタイ語でも補助動詞 *iy-/jiber-* が使われている場合をみる。この場合、補助動詞としての意味用法はほぼ一致しているように思われる。(7a) キルギス語の場合、主動詞 *tašta-*「捨てる」が使われているのに対して、(7b) のアルタイ語では *tömön kal-*「下にする、捨てる」が使われているが、これらに続く補助動詞は、キルギス語には *jiber-* が、アルタイ語には *iy-* が用いられている。なお、本稿ではキルギス語の例文を [キ]、アルタイ語の例文を [ア] と記す。また、キルギス語については補助動詞の意味的なニュアンス

スを含めて日本語訳を付けているが、アルタイ語については、母語話者への調査が未だ行えていないため、日本語訳を付けていないが、対応する聖書の原文は同じである。

- (7) a. *Kana, Kuday Uul-u bol-so-ŋ,*  
 では 神 息子-3:POSS なる-COND-2SG  
*öz-üŋ-dü tömön tašta-p jiber-či.* [キ]  
 自分-2SG:POSS-ACC 下 捨てる-CVB AUX-REQ  
 「もしお前が神の子であるなら、自分を下に捨てなさい。」<sup>8</sup>

- b. *Sen Kuday-dij Uul-i bol-zo-ŋ, tömön kal-ip iy.* [ア]  
 君 神-GEN 息子-3:POSS なる-COND-2SG 下 する-CVB AUX

一方、(8a) のキルギス語の文では主動詞に *irgüt-*「投げる」が使われているのに対して、アルタイ語の文 (8b) では主動詞 *tašta-*「捨てる」が使用されているが、補助動詞はキルギス語の *jiber-* に対して、アルタイ語の *iy-* が対応している。

- (8) a. *Egerde seni oŋ köz-üŋ künöö-gö türt-üp at-sa,*  
 もしも 君:ACC 右 目-2SG:POSS 罪-DAT 押す-CVB AUX-COND  
*anı oyu-p sal da irgüt-ip jiber.* [キ]  
 それ:ACC 刻む-CVB AUX EMPH 投げる-CVB AUX  
 「もし君の右目が情欲を引き起こすなら、その目をえぐり出して捨ててしまいなさい。」

- b. *Oŋ köz-üŋ seni zhaman-ga bašta-p tur-gan bol-zo,*  
 右 目-2SG:POSS 君:ACC 悪-DAT 始まる-CVB AUX-PTCP なる-COND  
*on-iŋ-dī kodor-o tart-ip, boyi-ŋ-naŋ ari tašta-p iy.* [ア]  
 それ-2SG-ACC 抜く-CVB 引く-CVB 自分-2SG:POSS-ABL 遠く 捨てる-CVB AUX

次の例では、両言語における同源動詞 [キ] *sat-*「売る」、[ア] *sad-*「売る」が主動詞として使われている。

- (9) a. *...kuban-gan-i-nan kol-u-nda-gi-nin baar-i-n*  
 喜び-PTCP-3:POSS-ABL 手-3:POSS-LOC-NML-GEN 全て-3:POSS-ACC  
*sat-ip jiber-ip, kayra ošol talaa-ni sat-ip al-a-t.* [キ]  
 売る-CVB AUX-CVB 再び その 畑-ACC 売る-CVB 取る-PRES-3  
 「喜びの余り手に持っている財産全てを売ってしまい、そして、再びその畑 (財産) を買う。」

<sup>8</sup> 本節におけるキルギス語の日本語訳は、全てキルギス語母語話者である筆者 (1978 年生まれ女性、キルギス共和国ナルン市出身) によるものであり (原文に近い翻訳を試みた)、聖書翻訳の日本語訳とは異なる点がある。

- b. ...*süün-gen* *boyınča bar-ïp,* *ne bar-ï-n* *sad-ïp iy-ïp,*  
 喜ぶ-PTCP するや否や 行く-CVB 何 全て-3:POSS-ACC 売る-CVB AUX-CVB  
*bayag-ï zhalañ-dï sad-ïp al-gan.* [ア]  
 それ-3:POSS 畑-ACC 売る-CVB 取る-PST

今回の調査からは、*irgüt-*「投げる」、*tašta-*「捨てる」、*sat-*「売る」、*kïykïr-*「叫ぶ」などが主動詞の場合、キルギス語には補助動詞 *jiber-* が、アルタイ語には *iy-* が、対応する位置に現れる傾向がみられた。

② 一方の言語（キルギス語）には補助動詞が使用されない場合

本調査では、次のようにアルタイ語では補助動詞 *iy-* が使われているが、キルギス語には補助動詞が使われていない文も観察された。キルギス語の場合、アルタイ語と異なり、主体の認識行為を表す動詞 *kör-*「見る」<sup>9</sup>、*bil-*「知る」、*tüšün-*「分かる」や、主体の移動を表す動詞などには補助動詞 *iy-/jiber-* が組み合わさらないことによるものだと考えられる。

- (10) a. *Ïysa an-dan arï bar-at-ïp,* *dagï bölök eki bir tuğan-dar-dï:*  
 イエス それ-ABL 遠く 行く-PRES-CVB EMPH 他 二 一 兄弟-PL-ACC  
*Jakïp menen Jakan-dï kör-dü.* [キ]  
 ヤコブ と ヨハネ-ACC 見る-PST  
 「イエスはそこから進んでいって、他の二人の兄弟、ヤコブとヨハネを見た。」
- b. *Onoñ arï bar-ïp,* *baza eki karındaš-tï Zevedey uul-ï Iakov-tï*  
 そして 遠く 行く-CVB また 二 兄弟-ACC ゼベダイ 息子-3:POSS ヤコブ-ACC  
*la onïñ Ioann karındazh-ï-n kör-üp iy-dï.* [ア]  
 と 彼:GEN ヨハネ 兄弟-3:POSS-ACC 見る-CVB AUX-PST

- (11) *farisey-ler menen sadukey-ler-din okut-uu-su-nan*  
 パリセイ-PL と サドカイ-PL-GEN 教える-VN-3:POSS-ABL  
*sak bol-uu-nu ayt-kan-ïn tüšün-üş-tü.* [キ]  
 気をつける-VN-ACC 言う-PTCP-ACC 理解する-RECIP-PST  
 「パリサイ人やサドカイ人のまちがった教えのことだと知った（分かった）。」

- (12) *farisey-ler le saddukey-ler-diñ üredü-zi-neñ*  
 パリセイ-PL と サドカイ-PL-GEN 教え-3:POSS-ABL  
*čeberlen-zin de-gen-in, bu tuš-ta bil-ïp iy-dï-ler.* [ア]  
 気を付ける-3:POSS:ACC 言う-PTCP-ACC この 時-LOC 知る-CVB AUX-PST-PL

<sup>9</sup> Simpson (1955: 54) は、アルタイ語の補助動詞 *iy-* の代表的な例として *kör-*「見る」の例文をあげている。

例) *karlu kïr-lar-dï kör-üp iy-dï* 「彼は雪の山々を見た」  
 雪の 山-PL-ACC 見る-CVB AUX-PST



また、以下のように、移動動詞に続く場合は、キルギス語では補助動詞が使用されないのに対して、アルタイ語では補助動詞 *iy-* が使用可能である。

- (13) *Īysa: – Kel, – de-di. Ošondo Petir kayik-tan čig-ip,*  
 イエス 来い 言う-PST その時 ペテロ 船-ABL 出る-CVB  
*suu-nun üst-ü menen Īysa-ga jönö-dü.* [キ]  
 水-GEN 上-3:POSS で イエス-DAT 歩く-PST  
 「イエスは、「来い」と言った。ペテロは船を出て、水の上でイエスに向かって歩いた。」

- (14) *Iisus: – Kel – de-di. Petr keme-deŋ čig-ip,*  
 イエス 来い 言う-PST ペテロ 船-ABL 出る-CVB  
*Iisus-ka zhed-er-ge, suu-niŋ üsti-le bazi-p iy-di.* [ア]  
 イエス-DAT 着く-PTCP-DAT 水-GEN 上-で 歩く-CVB AUX-PST

実際に、キルギス語の場合、*kör-*「見る」、*bil-*「知る」、*tüšün-*「わかる」、*bas-*「歩く」などといった動詞と補助動詞 *jiber-* が共起して現れる例は一例もなかった。Tokhnina (2006) で例示されている通り、アルタイ語の補助動詞 *iy-* は幅広い主動詞と組み合わせることが再確認できる。

### ③ 一方の言語（アルタイ語）には他の補助動詞が使用されている場合

両言語において補助動詞が現れているものの、異なる補助動詞が使用されている場合をみる。(15a) では、キルギス語では補助動詞 *jiber-* が使用されているのに対して、アルタイ語の例 (15b) では補助動詞 *ber-* が使用されている。

- (15) a. *Ani arbak eken de-p oylo-p,*  
 それ:ACC 幽霊 MOD 言う-CVB 思う-CVB  
*korkkondug-u-nan bakir-ip jiber-iš-ti.* [キ]  
 恐怖-3:POSS-ABL 叫ぶ-CVB AUX-RECIP-PST  
 「てっきり幽霊だと思い、恐怖から悲鳴をあげてしまいました。」

- b. *Bu süne! – de-p, kiygür-ija ber-di-ler.* [ア]  
 これ 幽霊 言う-CVB 叫ぶ-CVB AUX-PST-PL

これらの文においては、異なる補助動詞が使われている。キルギス語の文 (15a) では、「悲鳴をあげてしまった」という急な（突然の）思い掛けない出来事を表す。アルタイ語の (15b) は、キルギス語に置き換えれば「悲鳴をあげ続けた」という動作の継続を表すように思われるが、翻訳者の解釈が異なるから異なる補助動詞が用いられているのか、それとも補助動詞の意味用法が異なるからなのか、今後の調査の結果を待ちたい。

本節の考察結果は、以下の表のようにまとめられる。

[表3] 聖書翻訳テキストにおけるキルギス語とアルタイ語の補助動詞 *iy-/jiber-* の対照

	主動詞の種類	出現した主動詞の具体例 <sup>10</sup>
両言語ともに補助動詞 <i>iy-/jiber-</i> が出現する場合	他動詞	[キ] <i>aylant-</i> 「回す」、 <i>ayri-</i> 「破る」、 <i>ber-</i> 「与える」、 <i>kuy-</i> 「注ぐ」、 <i>sat-</i> 「売る」、 <i>tašta-</i> 「捨てる」、 <i>ötkör-</i> 「通す」、 <i>irgüt-</i> 「投げる」、等 [ア] <i>ayttir-</i> 「伝える、言わせる」、 <i>aruta-</i> 「治す」、 <i>ber-</i> 「与える」、 <i>bojod-</i> 「放す」、 <i>sad-</i> 「売る」、 <i>sun-</i> 「(手) 伸ばす」、 <i>tašta-</i> 「捨てる」、 <i>zhakar-</i> 「命令する」、 <i>čigar-</i> 「出す」、 <i>taji-</i> 「運ぶ」、等
	自動詞	[キ] <i>kiykir-</i> 「叫ぶ」、 <i>bakir-</i> 「叫ぶ」、 <i>bozdo-</i> 「号泣する」、等 [ア] <i>küygir-</i> 「叫ぶ」
キルギス語には補助動詞が使用されず、アルタイ語のみ出現する場合	認識動詞	[ア] <i>kör-</i> 「見る」、 <i>bil-</i> 「知る」、 <i>tüşün-</i> 「分かる」
	移動動詞	[ア] <i>baz-</i> 「歩く」、 <i>zhür-</i> 「動く、歩く」、 <i>zhan-</i> 「出発する」

本節の考察結果からは、両言語における主動詞の種類に偏りがあることが明らかである。アルタイ語では、認識行為を表す動詞や、移動を表す動詞が補助動詞 *iy-* の主動詞として出現するが、キルギス語ではそうではないという相違は興味深いものであるから、以下、両言語における翻訳資料以外のテキストからも用例を抽出し、両言語の対照を更に探ってみる。

### 3.2.2. キルギス語・アルタイ語のテキストからの用例調査

アルタイ語とキルギス語で書かれたテキストから、場合によってはインターネットからの用例文を抽出し考察した。インターネットからの用例抽出は、特にキルギス語の場合、文語で用いられる *jiber-* だけでなく、*iy-* もインターネット上のテキストには多く現れる傾向があるため重要である。

今回のテキストデータから、両言語ともに出現する主動詞、アルタイ語では出現するがキルギス語では出現しない主動詞、その逆にアルタイ語では出現するがキルギス語では出現しない主動詞の特徴を考察する。なお、キルギス語の日本語訳は補助動詞の意味的なニュアンスを含めたものだが、アルタイ語については、母語話者への調査や確認のない [仮訳] としての日本語訳であることを断っておく。

#### ① キルギス語でも、アルタイ語でも出現する主動詞

まず、両言語において補助動詞 *iy-/jiber-* の用法が共通あるいは類似していると見られる

<sup>10</sup> 翻訳資料から実際に抽出した動詞の例を示しておく。

用例を、主動詞ごとに以下に挙げる。キルギス語におけるこれらの例の場合、補助動詞は「突然／素早く」という動作の様態を表す。

**ïyla-**「泣く」

- (16) *Tokton-o al-ba-y ïyla-p iy-di.* [キ]

止まる-CVB POT-NEG-CVB 泣く-CVB AUX-PST

「我慢できず、突然泣きだした。」

- (17) *Ol kiji čumur-u-ga araqyın zhuuktap la kel-er-de,*  
その 人 小屋-3:POSS-DAT 静か 最近 も 来る-PTCP-LOC

*men ïyla-p iy-di-m.* [ア]

私 泣く-CVB AUX-PST-1SG

「その人は小屋に静かに近くに来た時、私は泣いた。」[仮訳]

**kül-**「笑う」

- (18) *Kapısınan katkır-ıp kül-üp iy-di, baş-ı-n čayka-p.* [キ]

突然 大笑いする-CVB 笑う-CVB AUX-PST 頭-3:POSS-ACC 振る-CVB

「突然、大声で笑った。頭を振りながら。」

- (19) *Ene-zi uul-ın kör-üp iy-ile, küümzuren-ıp iy-di.* [ア]

母親-3:POSS 息子-3:POSS:ACC 見る-CVB AUX-CVB 笑う-CVB AUX-PST

「母親は息子を見て、ニコニコした。」[仮訳]

**kïykïr-**「叫ぶ」

- (20) *Akïrïn! – de-p kïykïr-ıp iy-di Livi.* [キ]

静かに 言う-CVB 叫ぶ-CVB AUX-PST リヴィ

「静かに！とリヴィが突然叫んだ。」

- (21) *Iya-a-a! – töö sañ baška ün-i-le kïygïr-ıp iy-di.* [ア]

EMPH らくだ 奇妙な 声-3:POSS-LOC 叫ぶ-CVB AUX-PST

「イヤー！とらくだは異常な声で叫んだ。」[仮訳]

**jum-**「閉じる」

- (22) *Kızmončok köz-dör-ü-n jum-up iy-di.* [キ]

クズモンチョコ 目-PL-3:POSS-ACC 閉じる-CVB AUX-PST

「クズモンチョコは突然目を閉じた。」

- (23) *Kuyruk köz-ü-n jum-up iy-di.* [ア]  
 クイルク 目-3:POSS-ACC 閉じる-CVB AUX-PST  
 「クイルクは目を閉じた。」[仮訳]

上記の例のように主動詞が意志動詞である場合だけではなく、無意志動詞の場合も *iy-* が使われる例が存在する。

*jaa-* 「降る」

- (24) *men Jup jet-ken-de ele, jamgür jaa-p iy-di.* [キ]  
 私 ちょうど 着く-PTCP-LOC PRCL 雨 降る-CVB AUX-PST  
 「私がちょうどたどり着いた時、雨が突然降り出した。」

- (25) *Kün soo-y ber-di, kar jaa-p iy-di.* [ア]  
 日 寒くなる-CVB AUX-PST 雪 降る-CVB AUX-PST  
 「日が寒くなってきて、雪が降り出した。」[仮訳]

このように一定の動詞類においては、両言語において補助動詞 *iy-/jiber-* が後続可能であり、互いに類似した用例がみられる。

② アルタイ語では出現するが、キルギス語では出現しない主動詞

Tokhnina (2006: 70-86) によると、アルタイ語の場合、補助動詞 *iy-* は「感覚動詞」と共起できることが既に指摘されている。前述した翻訳資料による調査 (3.2.1.) でも確認できたが、本節のアルタイ語のデータからも、主体の認識行為を表す動詞 *bil-* 「知る」、*uk-* 「聞く」、*kör-* 「見る」、*sez-* 「感じる」などを主動詞とする例文が抽出された。

- (26) *ÿyla-p tur-gan bala onij uul-ï*  
 泣く-CVB AUX-PTCP 子 彼:GEN 息子-3:POSS  
*bol-gon-i-n bil-ip iy-di.* [ア]  
 なる-PTCP-3:POSS-ACC 知る-CVB AUX-PST  
 「泣いていた子が彼の息子であることを知った。」[仮訳]

- (27) *Ösküzek “ene” de-gen sös ug-up iy-di,*  
 オスクセク 母 言う-PTCP 言葉 聞く-CVB AUX-PST  
*ed-i—kan-ï zhili-y tüš-ti.* [ア]  
 肉-3:POSS 血-3:POSS 暖かくなる-CVB AUX-PST  
 「オスクセクは「母」という言葉を聞いて、全身が暖かくなってきた。」[仮訳]

(28) *Karčaga zhurt-ta ulus tüymeje ber-gen-i-n kör-üp iy-di.* [ア]  
 鷹 村-LOC 人々 心配する-PTCP-3:POSS-ACC 見る-CVB AUX-PST  
 「鷹が村で人々が心配しているのを見た。」[仮訳]

(29) *Oni-zī-n soldat-tar čurče le sez-ip iy-di-ler.* [ア]  
 それ-3:POSS-ACC 軍人-PL すぐに 感じる-CVB AUX-PST-PL  
 「それを軍人たちはすぐに感じた。」[仮訳]

次に、主体の移動を表す動詞 *zhel-*「走る」、*baz-*「歩く」と共起して補助動詞 *iy-* が現れる例文もあった。

(30) *Küčügeš is-ter-di taa-p, zhel-ip iy-di.* [ア]  
 子犬 足跡-PL-ACC 見つける-CVB 走る-CVB AUX-PST  
 「子犬は足跡を見つけ、走った。」[仮訳]

(31) *...temir zhol-dī zhakalay Altay-i-n köstöp baz-üp iy-di.* [ア]  
 線路-ACC 沿って アルタイ-3:POSS-ACC 向かう-CVB 歩く-CVB AUX-PST  
 「線路に沿ってアルタイへ向かって、歩いた。」[仮訳]

また、2.2.2.の表 1 にまとめたように、アルタイ語の場合、主体の姿勢変化を表す動詞と補助動詞 *iy-* が共起して現れる文も確かに存在する。

(32) *Men tīm otur-üp iy-di-m.* [ア]  
 私 静かに 座る-CVB AUX-PST-1SG  
 「私は静かに座った。」[仮訳]

(33) *Men korko-lo, šik la tur-up iy-di-m.* [ア]  
 私 恐怖-LOC 静か と 立つ-CVB AUX-PST-1SG  
 「私は恐怖から、静かに立った。」[仮訳]

一方、キルギス語の場合、これらのタイプの動詞と補助動詞 *iy-/jiber-* が共起して現れることはない。今回の調査資料からも 1 例も出てこなかったことから、キルギス語の場合、認識動詞、移動動詞、姿勢変化を表す動詞は補助動詞 *iy-/jiber-* とは共起して出現できないと言える。

### ③ キルギス語では出現するが、アルタイ語では出現しない主動詞

前項ではアルタイ語では使われ、キルギス語には見られない主動詞群について述べたが、ここでは、その逆に、キルギス語では使われるが、アルタイ語では使われない主動詞について述べる。例えば、キルギス語には (34) に見るような、*de-p iy-*「言ってしまう」の例が

多く出現したのに対し、アルタイ語のデータからは見られなかった。アルタイ語では *dep* は動詞というより、引用標識として使用され、補助動詞 *iy-* の主動詞として現れない可能性が高いと予測できる。

- (34) “*E kokuy bul emne-si tiginisi erkek go*”- *de-p iy-di*. [キ]  
 しまった これ 何-3:POSS そっち 男 MOD 言う-CVB AUX-PST  
 「しまった、何これ、隣の者は男性なんだ」と言ってしまった。」

また、キルギス語の場合、Ohsaki & Akmatalieva (2018) で指摘されたように、補助動詞 *jiber-* は受動の意味を表す使役動詞と共起できる。この場合、補助動詞 *jiber-* は主体の「残念や後悔」の気持ちを表す。アルタイ語には今回のデータから同様の用例は見られなかったが、今後更なる調査が必要である。

- (35) *24 million rubl' akča-si-n uurda-t-ïp jiber-di*. [キ]  
 24 百万 ルーブル 金-3:POSS-ACC 盗む-CAUS-CVB AUX-PST  
 「2400 万ルーブル分の紙幣を盗まれてしまった。」 (Ohsaki & Akmatalieva 2018)

- (36) *20-som-u-n koy-du ele, 15-i-n ut-tur-up jiber-di*. [キ]  
 20 ソム-3:POSS-ACC 置く-PST PRCL 15-3:POSS-ACC 勝つ-CAUS-CVB AUX-PST  
 「20 ソムを置いたが、その 15 を勝たせてしまった。」 (Krippes 1998: 542)

本節の考察結果は、以下の表のようにまとめられる。

[表 4] 本調査における補助動詞 *iy-/jiber-* の使用におけるキルギス語とアルタイ語の対照

主動詞の種類		キルギス語	アルタイ語
一部の他動詞	<i>kïykir-</i> 「叫ぶ」 <sup>11</sup>	○	○
一部の自動詞	<i>jaa-</i> 「降る」	○	○
受動の意味を表す使役動詞	<i>uurdat-</i> 「降る」	○	?
言う／引用標識	<i>de-</i> 「言う」	○	?
認識行為を表す動詞	<i>bil-</i> 「知る」	×	○
移動を表す動詞	<i>bas-</i> 「歩く」	×	○
姿勢変化を表す動詞	<i>tur-</i> 「立つ」	×	○

表 4 から明らかなように、キルギス語の場合、補助動詞 *iy-/jiber-* は一部の他動詞、自動詞しか主動詞として共起して出現しない。一方のアルタイ語の補助動詞 *iy-* は、幅広い動詞のタイプと共起して現れうる。認識動詞、移動動詞、姿勢変化を表す動詞の場合に現れるアルタイ語の補助動詞 *iy-* の文法的なふるまいは、他の補助動詞と置き換えることができるか

<sup>11</sup> 主動詞の具体例を示しておく。

どうかという点が現段階では不明であり、母語話者に対する今後の調査が必要である。

#### 4. キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *iy-/jiber-* に見られる出現傾向

本稿では、キルギス語とアルタイ語における補助動詞 *iy-/jiber-* の用法にみられる類似点や相違点について調査・考察を行った。その結果、両言語の間には以下のような類似点や相違点が存在することが明らかになった。

(1) 両言語において主動詞が一部の他動詞、一部の自動詞の場合、補助動詞 *iy-/jiber-* に共通する用法がみられる。

(2) キルギス語の補助動詞 *iy-/jiber-* は一定の主動詞に限って使用され、共起制限が存在する。

(3) アルタイ語の補助動詞 *iy-* はキルギス語と比べ、出現頻度も高い。アルタイ語の補助動詞 *iy-* は、幅広い動詞（認識動詞、移動動詞、姿勢変化を表す動詞）と共起して現れることも明らかになった。そして、そのふるまいにもかなりの違いがある。ただし、本稿ではアルタイ語の補助動詞 *iy-* の詳細な文法的意味用法にまでは議論が及んでおらず、今後の課題として残る。

本稿の冒頭でも述べたが、両言語はチュルク諸語の下位分類においては異なるグループに分類され、地理的分布も比較的遠い。しかしながら、両言語の類似について Baskakov (1966: 11-13) や Johanson (1998: 81-137) などが指摘している。本稿の調査より、両言語間に類似点が少なからず存在することが観察された。一方で、相違点も見られる。本調査からは、補助動詞 *iy-/jiber-* の使用に関しては、両言語は類似するものの、むしろ相違点の方が多いように思われる。その相違は、キルギス語は中央アジア周辺言語、アルタイ語は北東周辺言語との接触によってもたらされた可能性が考えられる。

今後の課題としては、キルギス語とアルタイ語だけでなく、チュルク諸語における補助動詞 *iy-/jiber-* の全貌を明らかにする必要がある。それによって、本稿のキルギス語とアルタイ語における類似点・相違点が①周辺言語における影響によるものか、或いは②歴史的変遷や発展によるものかが明らかになると期待できるため、更に研究を深める必要がある。

#### 謝辞

この研究は、科学研究補助金・基盤研究 (A) 「アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究」(研究代表者: 久保智之)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェイス—」の支援を受けている。また、2名の匿名査読者から極めて有益なコメントをいただいた。心より深く感謝申し上げたい。

#### 略号一覧

ABL	奪格	CAUS	使役
ACC	対格	COND	条件
AOR	アオリスト	CVB	副動詞
AUX	補助動詞	DAT	与格

EMPH	強調	POT	可能
GEN	属格	PRES	現在
IMP	命令	PRTCL	助詞
LOC	位格	PST	過去
MOD	モダリティ	PTCP	形動詞
NEG	否定	RECIP	相互
NML	名詞化接辞	REQ	依頼
PL	複数	SG	単数
POSS	所有	VN	動名詞

### 参考文献

- Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1958) *Altayskiy yazik*. Moscow: Nauka.
- Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1966) *Tyurskiye yaziki, Yaziki narodov SSSR*. Tom 2, 506-524. Moscow: Nauka.
- Čumakaev, Aleksey Eduardovič. (eds.). (2018) *Altaysko-russkiy slovar'*, Gorno-Altaysk.
- Johanson, Lars. (1998) The History of Turkic. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 81-137. London, New York: Routledge.
- Kirchner, Mark. (1998) Kirghiz. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 344-356. London, New York: Routledge.
- Nadelyaev, Vladimir Mihaylovič. (eds.). (1969) *Drevnetyurkskiy slovar'*. Leningrad: Nauka.
- Ohsaki, Noriko and Jakshylyk, Akmatalieva. (2018) Volitionality and auxiliary verbs in Kyrgyz: the case of *kör-* and *jiber-*. In the Conference “Current Topics in Turkic Linguistics,” at the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Seydakmatov, Kasimbek. (1988) *Kirgiz tilinin kiskača etimologiyalik sözdüğü*, Frunze: Ilim.
- Simpson, Cyril Gordon. (1955) *Some Features of the Morphology of the Oïrot (Gorno-Altai) Language*. London: Central Asian Research Centre.
- Tazranova, Alyona Robertovna. (2017) Vspomogatel'nie glagoli. In Nevskaya, I. A. (eds.). *Grammatika sovremennogo altayskogo yazika. Morfologiya*. 202-289. Gorno-Altaysk.
- Tokhnina, Erkey Tenišovna. (2006) *Biverbal'nie konstruksii s aspektual'noy semantikoy nedlitel'nosti v altayskom yazike (v sopostavlenii s šorskim yazikom): avtoreferat dissertatsii kandidata filologičeskikh nauk*. Novosibirsk.
- UNESCO (2009) *Atlas of the World's Languages in Danger* (Online version).  
<http://www.unesco.org/languages-atlas/> (最終閲覧日: 2021年1月31日)
- Yudahin, Konstantin Kuz'mič. (1965) *Kirgizsko-Russkiy slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo Sovetskaya enciklopediya.
- 菅野裕臣 (1992) 『動詞アスペクトについて (II)』 調査研究報告№35. 学習院大学東洋文化研究所.
- 庄垣内正弘 (1989) 「アルタイ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 第2巻』 524-528. 東京: 三省堂.



## 調査資料

アルタイ語 : [https://live.bible.is/bible/ALTIBT/MAT/1?audio\\_type=audio\\_drama](https://live.bible.is/bible/ALTIBT/MAT/1?audio_type=audio_drama)

キルギス語 : [https://live.bible.is/bible/KIRWBT/MRK/1?audio\\_type=audio\\_drama](https://live.bible.is/bible/KIRWBT/MRK/1?audio_type=audio_drama)

## A Survey on the Appearance of the Auxiliary Verb *iy-/ jiber-* in Kyrgyz and Altai

Jakshylyk AKMATALIEVA  
(Tokyo University of Foreign Studies)

This paper examines the similarities and differences of the auxiliary verbs *iy-/ jiber-* in the Kyrgyz and Altai languages, pointing out the following facts:

1. The auxiliary verb *iy-* in Altai and the auxiliary verbs *iy-/ jiber-* in Kyrgyz share similar behavior when they follow certain transitive and intransitive verbs.
2. The auxiliary verbs *iy-/ jiber-* in Kyrgyz follow only a limited kind of verbs.
3. The auxiliary verb *iy-* in Altai is used more often and able to follow a less limited kind of verbs when compared with those in Kyrgyz. In addition, the behavior of the auxiliary verb *iy-* in Altai seems much different from that in Kyrgyz.

(アクマタリエワ・ジャクシルク [ajbukarbekovna@gmail.com](mailto:ajbukarbekovna@gmail.com))